テーマ：御言葉が描く霊的リーダー“執事”とはどのような存在か？

**〇霊的リーダーである“執事”の姿：二つの質問**

**Q1. “執事”とはどのような存在か？**

▶「執事」

※ヨハネ 2:5, 9
「母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。…宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったので、－－しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた－－」

※マタイ 8:14-15
「それから、イエスは、ペテロの家に来られて、ペテロのしゅうとめが熱病で床に着いているのをご覧になった。イエスが手にさわられると、熱がひき、彼女は起きてイエスをもてなした。」

※ピリピ 1:1
「キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。」

※1 ペテロ 4:10
「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」

**●執事の働きを理解するのに重要な三つの要素**

※使徒 6:1-7
「そのころ、弟子たちがふえるにつれて、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちが、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情を申し立てた。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである。そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。」

**a） 執事は長老の働きを＿＿＿＿＿＿＿存在(2, 4)**

**b） 執事は教会の一致を＿＿＿＿＿＿＿存在(1)**

**c） 執事は奉仕を通して福音の働きを＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿存在(7)**

**Q2. “執事”とはどのように選ばれるのか？(8-12)**

**1） 謹厳である**

**2） 二枚舌を使わない**
▶「二枚舌」(“数字の 2“＋“言葉“＝＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)

**3） 大酒飲みでない**

**4） 不正な利をむさぼらない**

**5） きよい良心で信仰の奥義を保っている**
▶「信仰の奥義を保っている」
※エペソ 3:5-6
「この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。」

▶「きよい良心で」

**6） 非難される点がない**
「模範は教訓よりも雄弁であり、生きた実践的な宗教は、議論や弁論よりもはるかに人々に大きな影響を与えるのです。」(アーチボルド･アレクサンダー)

**7） 威厳がある(女性執事)**

**8） 悪口を言わない(女性執事)**

**9） 自分を制する(女性執事)**

**10) 全てに忠実である(女性執事)**

**11) ひとりの妻の夫であり子どもと家庭をよく治める**

※マルコ 10:45
「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」